(様式4)

平成27年度 日上市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日上市立河原子中学校 教諭 小澤 哲子

1 派遣期日 平成27年8月7日(金)

2 研修先 会場名 《第33回関東地区学校図書館研究大会 東京大会》
【B9分科会】【C9分科会】中野区立教育センター
所在地 〒165-0027 住所 東京都中野区野方一丁目35番3号
会場名 【D8分科会】中野区立中野中学校
〒164-0001 住所 東京都中野区中野一丁目57番12号

3 研修内容

(1) 大会主題

確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ学校図書館
～学習センター・情報センター・読書センター機能のさらなる充実をめざして～

(2) 各分科会での研修内容

① 【B9分科会：図書委員会活動】

「学校図書館運営と図書委員会の関わり」というテーマで発表が行われた。「読書活動活性化のための図書委員会活動」の発表では、生徒の読書習慣が確立していなかった学校を、図書館内の整備や選書の工夫、委員会活動の活性化により建て直した実践事例が紹介された。

それらの実践の中で、特に今後取り入れていきたいと感じたのが、「本の発注を小分けに行う」と、「学校独自のブックリストの作成」と、「広報担当としての図書委員の機能」の3点である。

まず1点目の「本の発注を小分けに行う」ことの利点としては、「来るたびに新しい図書館」をアピールすることができるという点である。

2点目の「学校独自のブックリストの作成」では、ブックリストの作成を行うことはもちろんであるが、「選定した140冊中何冊読み終えたか」によって、生徒たちに様々な称号が与えられるという点に面白みを感じた。「私は今まだビギナーだ」「あと2冊読めばマスターに昇格する」といったように、生徒たちが意欲的に読書することに繋がるとともに、ブックリストを利用していることから、普段なかなか手に取ることの少ないジャンルの本にも触る機会を設けることができる取組であった。

最後に、「広報担当としての図書委員の機能」である。ポスター等を作成して図書館利用を呼びかける活動は、多くの学校で行っているが、ここで印象に残ったのが、「図書委員一人一人に、広報担当者としての自覚と責任をもたせる」という点である。多くの生徒は、読書が好きだからこそ図書委員になる。自分が愛する本の良さを一人でも多くの人に伝えたい、図書委員として一人でも多くの人に図書室という場所を愛してほしいという想いを大切に、広報活動を行うのだという自覚を、活動当初にしっかりと委員に伝えることを大切にしているという。それにより、「友達を誘って図書室に来る」「自分の好きな本を友達に伝える」という行為が目を見張るほどに増えていくのだという。

② 【C9分科会：学校図書館を利用した教科指導】

「教科指導の中で学校図書館がどのように利用されているかの実践例」というテーマで発表が行われた。

まず、美術の授業での実践事例として、「創作絵本の作成」という活動が紹介された。司書教諭が選定した多くの絵本をグッドモデルとして提示することで、授業の導入をスムーズに行うことができたという。また、自分が表現したいストーリーを色で表現する場合にはどのような壁にぶつかったとき、モデルとして準備された多くの絵本が、絵本を創作する上での参考となり、表現力が深まってい

ったようである。

次に、冊数の限られた図書を各授業において活用する際の工夫である。「投影機を活用してテレビ画面に投影する」という方法や、「固定したビデオカメラを利用し、プロジェクターで黒板に直接投影する」という方法が紹介された。学校図書を授業において活用する際、最も悩みの種となるのが、活用したい図書が生徒数分揃っていないという点である。また、カラーの資料については、印刷して配布してしまうと、資料本来の色使いや細かい描写が伝わりづらくなってしまう。それらのデメリットをなくすための方法として、先に挙げた2つの方法は、有効な手段であると考えた。また、今後iPadなどのICTを活用して授業を行うようになってきた場合にも、安易にインターネットを利用するだけでなく、学校図書の資料をiPad上で共有するなどの活用方法も用いていけるのでは、と感じた。

③【D8分科会：学習センター・情報センターとしての学校図書館活用】

「学習・情報センターとしての学校図書館」というテーマで発表が行われた。

まず、「学習の仕方を学ぶ場所」としての役割を果たすため、学校図書館利用ガイドランスに力を入れるという実践が紹介された。学校図書館の利用方法の説明だけでなく、NDCや調べもの学習のしかたの指導を丁寧に行うことにより、総合的な学習の時間等で学校図書館を利用した際の調べ学習の様子に大きな差が出るという。

次に、「情報センターとしての役割」として、新聞の利活用が紹介された。ただ新聞を掲示して終わりなのではなく、複数の新聞の社説を切り抜いて掲示する。そうすることにより、図書室が単なる「本を置いてある場所」ではなく、「様々な情報を得ることの出来る場」として機能し、生徒たちの意識も変化していくのだという。

最後に、帰りの会での「プレゼンタイム」の実施である。毎日1人ずつ本の紹介スピーチを行うというものだが、その際に活用するのが、朝読書で記入している「読書ノート」である。本を読んだ感想、印象に残った言葉、10年後の自分へのメッセージ、考える力をつけるために有効なプレゼンテーションの方法などを、読書ノートに書きためていく。書きためる活動そのものも非常に有効な取組であるが、そのノートがプレゼンタイムに生かされることから、「プレゼンという目的があるからしっかりとノートを記入しよう」という意欲づけにもつながっているため、大きな相乗効果をもたらしている取組であった。

4 感想

多くの素晴らしい実践に触れる、大変良い機会となった。そして、それらの実践の全てにおいて、司書教諭と図書館司書の連携や、学校全体の図書館教育への協力と理解が重要であると感じた。図書館司書が専任で常駐している地域もあれば、司書教諭が通常の学校業務を兼務している地域もある。兼務している地域では、教諭の負担は非常に大きくなってしまい、魅力的な学校図書館作りにまではなかなか着手できない。そんな中、図書館司書が常駐している日立市は、大変恵まれた環境にあるのだということ、再認識させられた機会でもあった。すぐに取り入れることのできる実践も多くあったため、今後も図書館司書との連携を密に取り、確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ学校図書館を目指していきたいと感じた。